

40代後半で開発エンジニアから クラウドインフラエンジニアにキャリアチェンジし、 生き残れる自信がようやく持てた話

2024-10-18

ENECHANGE Tech Talk（社内勉強会）

CTO室 岩本隆史

ここ数年で人生がガラッと変わった

- 2020-08（47歳） ベルトラの開発エンジニアから、AWSの技術サポートに転職
- 2021-07（48歳） ENECHANGEのインフラエンジニア兼SREに転職
- 2023-10（50歳） VPoT兼CTO室マネージャーに就任

ベルトラで「開発エンジニアは無理だ」と悟った

- 企画チームから要件の説明を聞いても、ぼんやりとしか理解できない
 - 同じ話を聞いていた同僚は、入門したてのGoでAPIをあっさり実装した
- 既存のコードを流用して作ったAPIのパフォーマンスが悪かった
 - 同僚がフルスクラッチで爆速APIを実装した
 - 「流用して作ればいい」と上司に言われ、その通りにしただけだった

そんなとき、新型コロナが直撃した。どうしよう

ホーム > 7048・TYO

ベルトラ

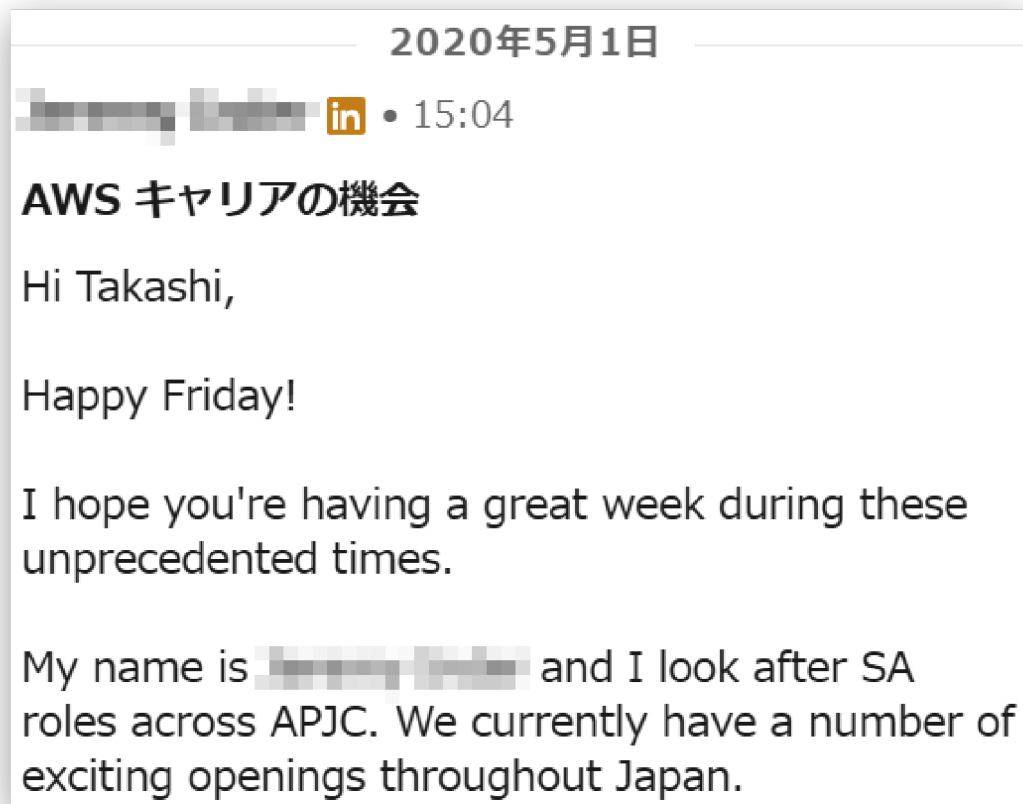
¥359.00 ↓27.91% -139.00 最大

10月16日, 17:37:05 UTC+9・JPY・TYO・免責条項

1日 5日 1か月 6か月 年初来 1年 5年 最大 [🔗 重要なイベント](#)



AWSのリクルーターからLinkedInで連絡が来た



- AWS認定を持っていることを載せていたからだと思う

せっかくなので、技術サポート職を「記念受験」した

- GoogleかAWSで働けたらカッコいいなと、つねづね思っていた
- ぼくの素朴な利用経験だけでは、ソリューションアーキテクト職は無理
- そもそも、ぼくなにか受かるわけがない

結果、なぜか採用された

- シンプルに人が足りなかったのだと思う
- STARメソッドで経験をアピールできるよう、じっくり準備はした
https://www.amazon.jobs/jp/landing_pages/in-person-interview
- やらずに諦めるのはもったいないと再認識

AWSでは、それなりに活躍できた（つもり）

- 怒られるので、くわしくは書けない

でも、AWSには向いていなかった

- 事業会社のほうが楽しかった
- 怒られるので、くわしくは書けない

クラウドインフラエンジニアに転職しようと思った

- 開発エンジニアに戻るのは無理
- AWSの知識はそれなりに身につけている

ENECHANGEが拾ってくれた

エネチェンジ社のインフラおよびSRE担当エンジニアとして、以下の役割を期待しております。

- インフラの設計や構築、各種改善やそれらに関連する開発業務の推進・支援
 - 各サービスの技術的負債の解消に向けた活動の推進・支援
 - 上記の業務などを通じた社内の技術レベル向上に向けた活動の推進・支援
-
- 率直に「元AWS」が評価されたのだと思う

2年間、とても楽しかった

- AWSの知識を活かして、いろいろ改善できた
 - Well-Architected Frameworkの適用とか
- 停滞していたテックブログも活発化できた
 - 2021年：3件（うち、ぼくが2件）、2022年：30件
- 年収もがんがん上がった

前VPoTの退職により、後継者の枠を打診された

- VPoT
- CTO室インフラ・SREチームのマネージャー

自信はなかったけれど、受けることにした

- 誰かがやらないと困る
- たぶん、ぼく以外の人はやりたがらない
- 打診されたということは、任せてもいいと思ってもらえたのだろう

やってみたら、大変だけれど、より楽しくなった

- 意外となんとかなる
- ENECHANGEのみんなは助けてくれる
- 自分よりメンバーの活躍がうれしくなる

生き残れる自信がようやく持てた

- AWSの知識が活かせる仕事は、当分なくならないはず
- 上場企業でマネージャー職のみならずVPoTも経験できた
- 51歳の今が人生でいちばん楽しい